

山元町の将来のまちづくりに関するアンケート 結果報告

(一般編)

令和7年10月

山元町建設水道課

1. 目的

都市計画マスタープラン(以下都市マスという)の改訂及び立地適正化計画の新規策定における基礎資料として、町民の都市づくりやまちづくりに関する意向等を把握するため、アンケート調査を実施しました。

なお、これらの計画は 20 年後を見据えたものであるため、町の将来を担う中学生・高校生にもアンケート調査を実施しました。

2. 調査対象と方法

アンケートの対象者は、町内に居住する 18 歳以上の町民（以下一般という）、高校生、中学生の 3 通りで実施しました。一般は無作為抽出とし、高校生と中学生は全生徒を対象としました。

調査票の配布及び回収は、郵送と Web アンケートで行い、中学生については、学習用端末を用いて授業の一環として回答することで回収率を高めるよう工夫しました。

3. 実施時期

○一般・高校生：令和 6 年 9 月 3 日～9 月 24 日

○中学生：教育委員会と連携し、授業内で実施

4. 配布・回収状況

配布数、回答数及び回収率は以下のとおりです。

配布数、回答数及び回収率

対象者	配布数	回答数	回収率	備考
一般（18 歳以上）	1,030	395	38.3%	無作為抽出
高校生	266	60	22.6%	全生徒対象
中学生	244	191	78.3%	全生徒対象
計	1,540	646	41.9%	

5. アンケート結果の整理の条件について

単純集計結果については、各設問の無回答は計上していません。なお、地域別のクロス集計については一般のみ整理しています。

地域別については、過小となり正分析が難しい地域もあるため、山下地域と坂元地域に分けて集計しています（山下地域 301、坂元地域 91）。

6. 調査項目

アンケートの調査項目（一般）

（高校生：●、中学生：▲）

種別	設問	設問の内容	計画への反映
1. 回答者の属性	問1	性別 ●▲	・ 分析のための属性把握
	問2	年齢	
	問3	居住地 ●▲	
	問4	職業	
	問5	通学・通勤先 ●	
	問6	山元町での居住年数	
	問7	家族構成	
2. 町の現在の満足度と将来の重要度	問8	自然環境 ●	・ 前回（H30）都市マスとの比較
		健康福祉 ●	
		都市基盤 ●	
		教育文化 ●	
		産業振興 ●	
3. 生活圏と移動パターン	問9	施設の利用頻度 ●▲	・ 課題の整理
		施設の主な場所 ●▲	
	問10	施設の主な移動手段 ●▲	
		施設のアクセスの利便性 ●▲	
4. コンパクトなまちづくり	問11	駅周辺やお住まいの地域に充実してほしい施設 ●▲	・ 課題の整理 ・ 立地適正化計画の方針
	問12	徒歩での利用圏内 ●▲	
	問13	自家用車を利用しない場合で住みたい地域 ●▲	
5. 山元町のまちづくり	問14	将来に向けた公共施設や行政区のあり方 ●	・ 立地適正化計画の方針
	問15	学校施設の利活用の方向性 ●	・ 実現化方策など
	問16	産業・物流拠点の立地場所	・ 将来都市構造など
	問17	将来不安と思うこと ●▲	・ 課題の整理
	問18	目指すべきまちづくり ●▲	・ 目標・方針
6. 今後の住み替え意向	問19	今後の定住意向 ●▲	・ 誘導区域指定の判断材料
	問20	別の場所に住みたい理由 ●▲	
	問21	転居できない理由	
7. 防災	問22	ハザードマップの認知度 ●▲	・ 防災指針の検討材料
	問23	地域の防災対策 ●▲	
8. その他	問24	自由意見 ●▲	

7. アンケートの信頼度・許容誤差について

【信頼度・許容誤差について】

- ・統計学では、許容誤差^(※)が5%以下であれば有意水準であると考えられており、一般的に400サンプルを回収することで許容誤差を5%以内に抑えられるものとなっています。

○一般アンケートの設定条件

- ・母集団のサイズ：山元町の人口：11,463人（住民基本台帳 令和6年8月末時点）
- ・回収比率：38.3%（配布数：1,030通、回収数：395通）

一般アンケート：信頼度 95%、許容誤差 ±4.71%

許容誤差早見表（信頼度 95%）

回答比率 (補数)	サンプル数と許容誤差（単位：%）					
	100	200	300	400	500	1,000
1% (99%)	2.0	1.4	1.1	1.0	0.9	0.6
5% (95%)	4.4	3.1	2.5	2.2	1.9	1.4
7% (93%)	5.1	3.6	2.9	2.6	2.3	1.6
10% (90%)	6.0	4.2	3.5	3.0	2.7	1.9
15% (85%)	7.1	5.0	4.1	3.6	3.2	2.3
20% (80%)	8.0	5.7	4.6	4.0	3.6	2.5
25% (75%)	8.7	6.1	5.0	4.3	3.9	2.7
30% (70%)	9.2	6.5	5.3	4.6	4.1	2.9
35% (65%)	9.5	6.7	5.5	4.8	4.3	3.0
40% (60%)	9.8	6.9	5.7	4.9	4.4	3.1
45% (55%)	9.9	7.0	5.7	5.0	4.4	3.1
50%	10.0	7.1	5.8	5.0	4.5	3.2

許容誤差の計算には、回答比率（ p ）とその補数（ $1-p$ ）が関係します。例えば、回答比率が1%（ $p=0.01$ ）の場合、その補数は99%（ $1-p=0.99$ ）です。逆に、回答比率が99%（ $p=0.99$ ）の場合、その補数は1%（ $1-p=0.01$ ）です。このように、 p と $1-p$ の値が対称的であるため、許容誤差も対称的になります。この対称性により、回答比率が1%でも99%でも、同じ標本サイズと信頼水準であれば、許容誤差は同じになります。

上記より、一般アンケートにおいては、町民の意向を把握する資料として有効な回答数となります。

ただし、回答者が限定される設問では回答数が減るため、信頼度が低くなり許容誤差が高くなることから、傾向を把握するための参考資料として活用します。

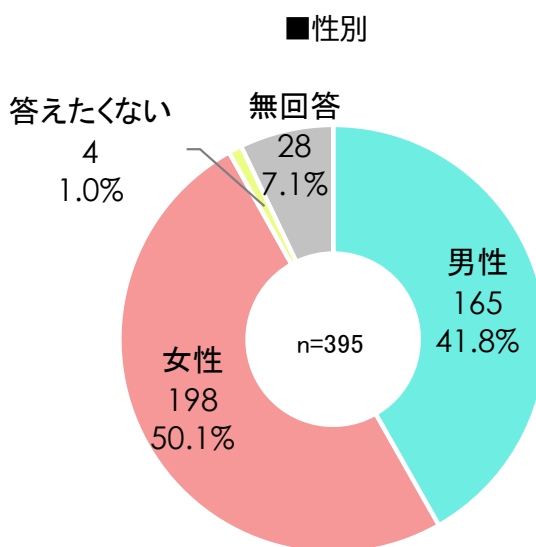
(※) 許容誤差…回答比率が母集団の真の値からどれだけ離れているかを示す指標。標本調査を行う場合は「母集団」から、一部を標本として無作為に取り出してアンケートを実施し、結果から母集団を推定するため誤差が生じる。この誤差を「許容誤差（標本誤差）」と呼ぶ。

8. 集計結果

(1) 回答者の属性

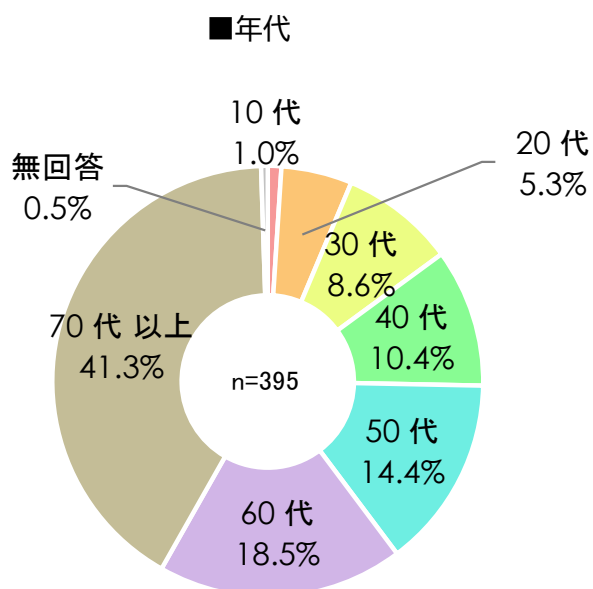
①性別

- ・回答者は「男性」が41.8%、「女性」が50.1%と男女比は女性の方が若干多い結果となっています。



②年代

- ・「70代」が41.3%で最も多く次いで「60代」の18.5%、「50代」の14.4%と高齢化率が高いことが伺えます。



<前回 (H30) 都市マスとの比較>

①「60代」：37.0%、②「50代」：18.5%、③「70代以上」：15.7%

➡70代以上が増加しており、高齢化が著しく進行していることが伺えます。

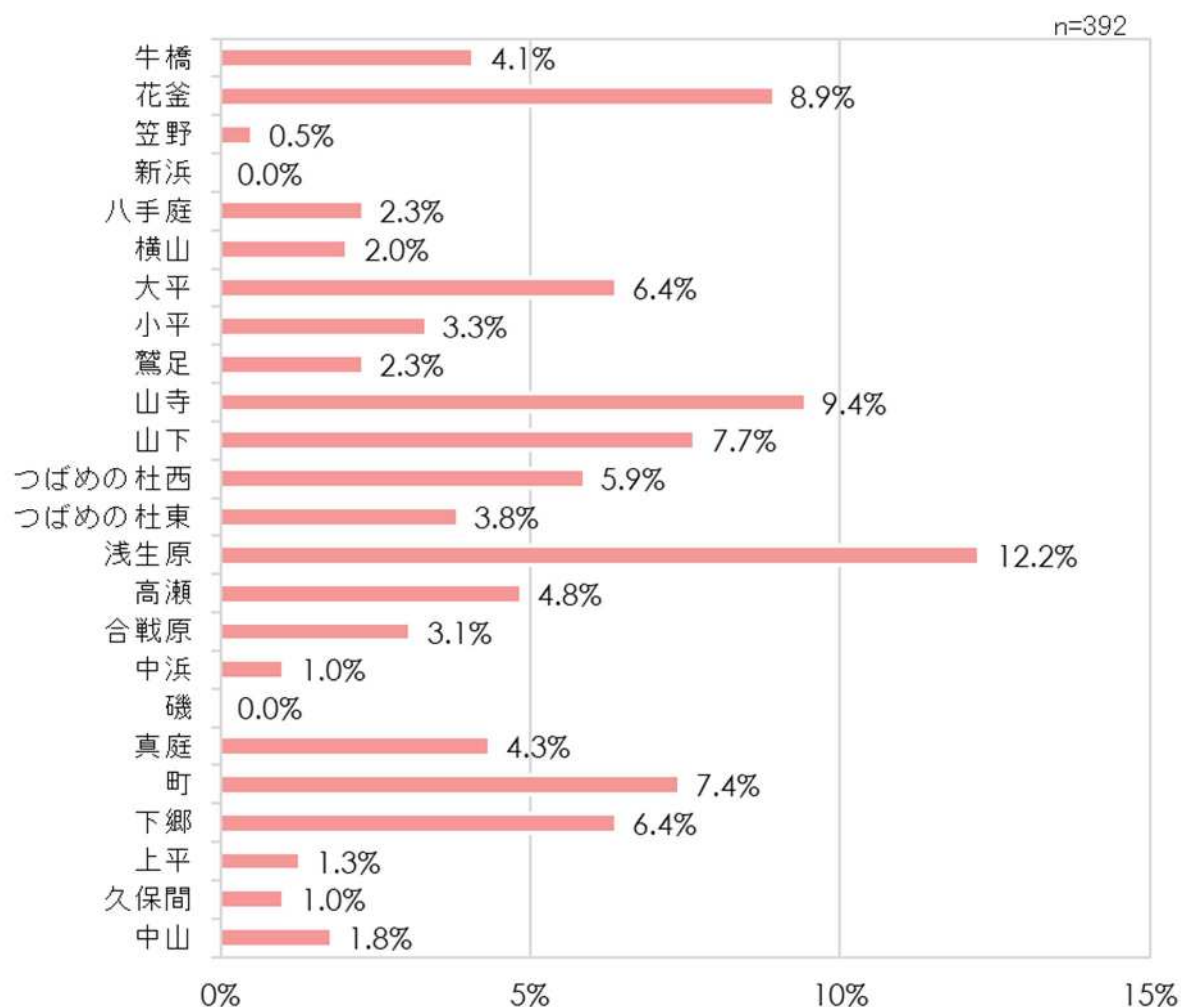
③居住地

- ・居住地は、「浅生原」が12.2%で最も多く、次いで「山寺」の9.4%となっています。
- ・地域別にみると、「山下地域」が76.8%、「坂元地域」が23.2%となり、多くの人が山下地域に居住しています。

■行政区の分類

山下地域	牛橋、花釜、笠野、新浜、八手庭、横山、大平、小平、鷺足、山寺、山下、つばめの杜西、つばめの杜東、浅生原、高瀬、合戦原	301人 (76.8%)
坂元地域	中浜、磯、真庭、町、下郷、上平、久保間、中山、	91人 (23.2%)

■居住地



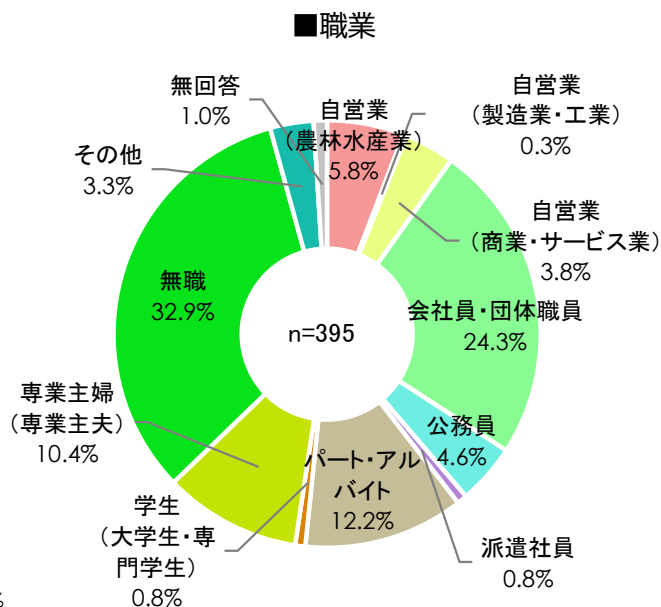
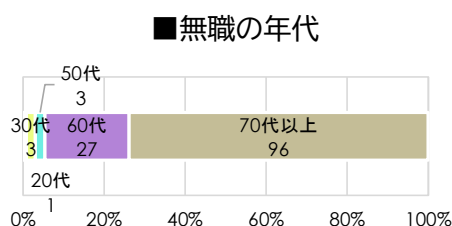
<前回 (H30) 都市マスとの比較>

- ①「山下地域」：63.0%、②「坂元地域」：22.3%、③「新市街地」：6.1%、
④「仮設住宅」：4.6%

➡今回は新市街地と仮設住宅の回答がなかったため、山下地域と坂元地域のみに分類されています。

④職業

- ・「無職」が 32.9%と最も多く、次いで「会社員・団体職員」が 24.3%、「パート・アルバイト」の 12.3%となっています。
- ・「無職」は主に 70 代以上が大半を占めています。



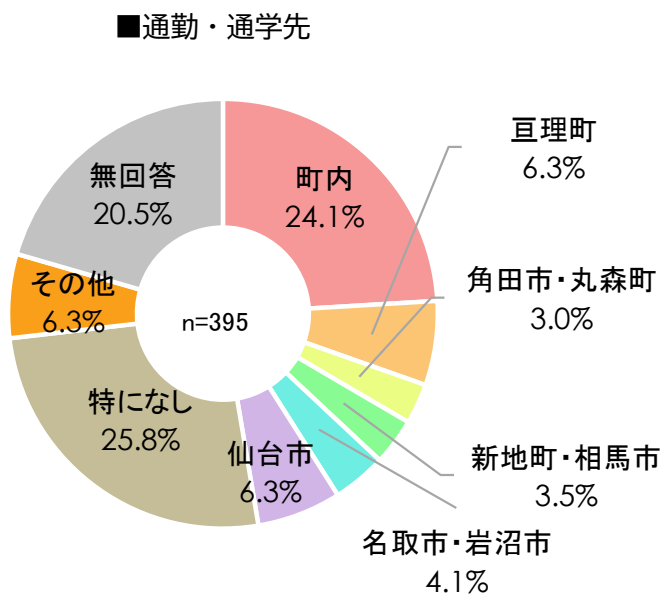
<前回 (H30) 都市マスとの比較>

- ①「会社員」：25.1%、②「主婦」：23.5%、③「無職」：19.7%、
- ④「サービス業」：6.3%、⑤「農業」「水産業」合わせて 6.1%

➡高齢化により「無職」が最も多くなっていると想定します。農林水産業の従事者の割合について大きな変化は見られません。

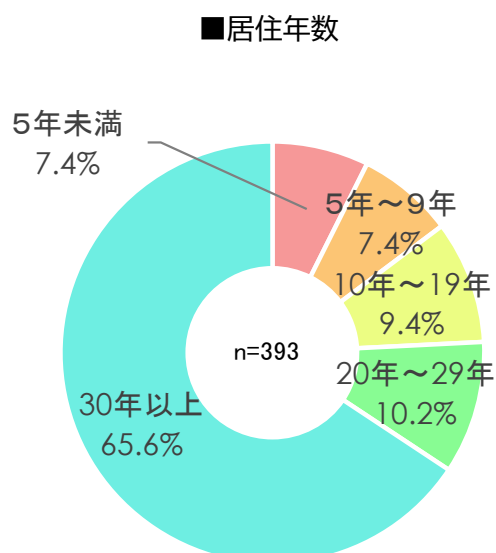
⑤通勤・通学先

- ・「特になし」が 25.8%で最も多く、次いで「町内」が 24.1%、「亶理町」「仙台市」が 6.3%ずつとなっており、近隣自治体への人の流れが確認されます。



⑥居住年数

- ・「30 年以上」が 65.6%と最も多く、次いで「20～29 年」の 10.2%、「10～19 年」の 9.4%となっています。

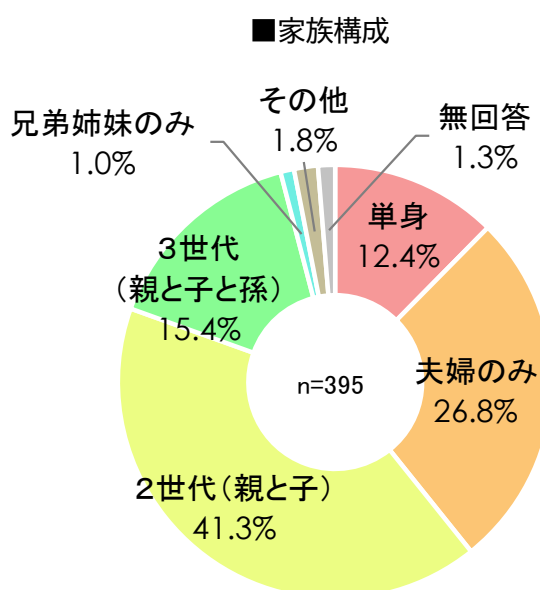


<前回（H30）都市マスとの比較>

- ①「30 年以上」：65.1%、②「20～29 年」：14.9%、③「10～19 年」：11.1%
- ④「5 年未満」：5.3%、⑤「5～9 年」：3.3%
- ➡10 年未満の居住者が増えていることから、移住者が増えていることが伺えます。

⑦家族構成

- ・「2 世代」が 41.3%で最も多く、次いで「夫婦のみ」の 26.8%、「3 世代」の 15.4%となっています。



<前回（H30）都市マスとの比較>

- ①「2 世代」：42.3%、②「夫婦のみ」：26.3%、③「3 世代」：19.5%
- ➡H30 年と割合構成としてはほぼ変化はありません。

(2) 地域の生活環境の評価

①現在の満足度

- ・多くの設問で「普通」の割合が高くなっています。
- ・最も満足度が高いのは、「住まいの環境」で「満足」「ほぼ満足」を合わせて 35.5%となっています。
- ・最も満足度が低いのは、「商店の充実や買物の利便性」で、「やや不満」「不満」を合わせて 63.5%となっています。

※満足度：各項目について、「満足」「ほぼ満足」の割合が高いものを「満足度が高い」、「やや不満」「不満」の割合が高いものを「満足度が低い」として分析。

<高校生との比較>

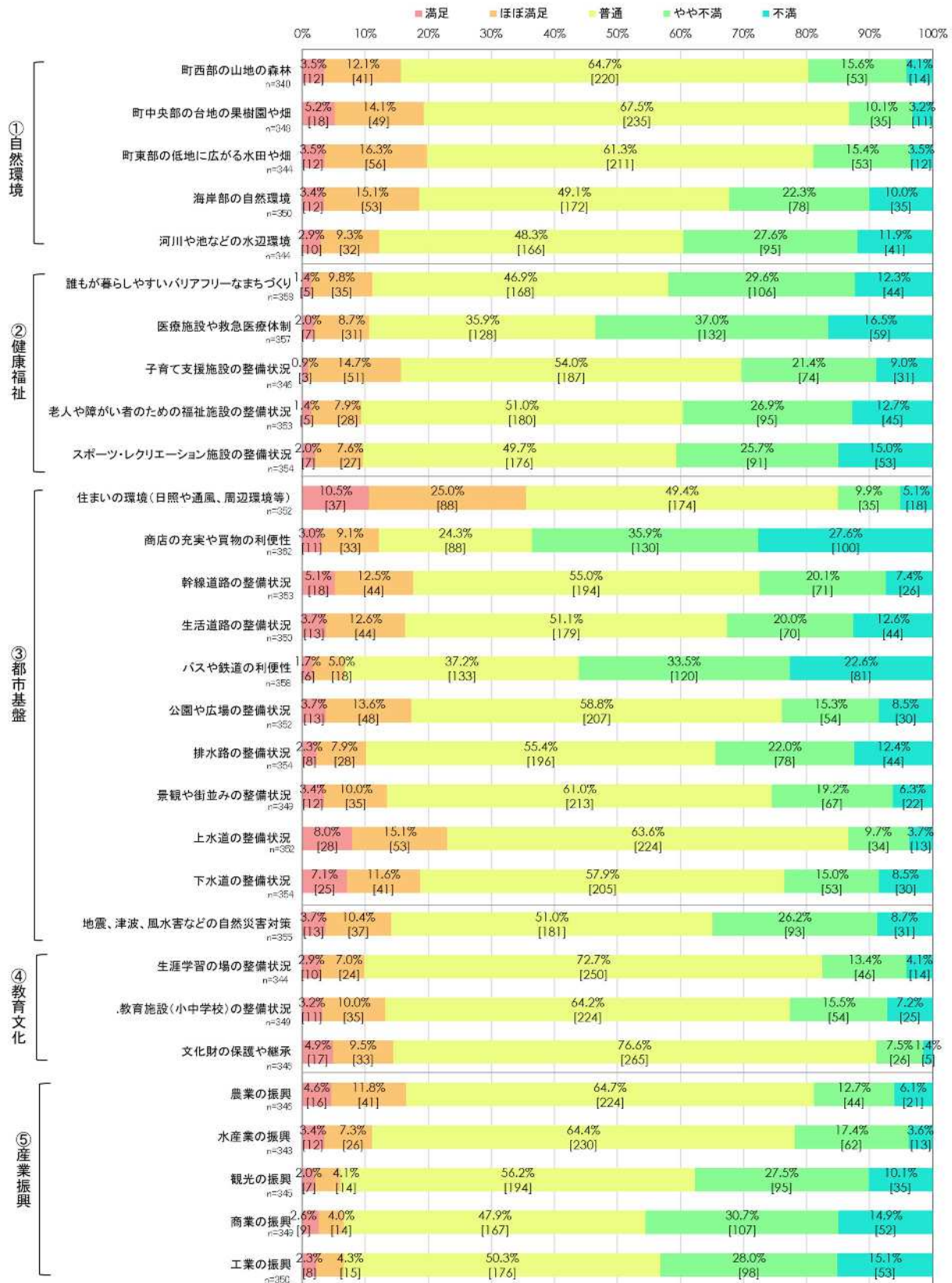
「満足」「ほぼ満足」が高い⇒①「住まいの環境」：56.7%、②：「公園や広場」：37.3%
 「やや不満」「不満」が高い⇒①「スポーツ・レクリエーション施設の整備状況」：51.7%
 「商店の充実や買物の利便性」：51.7%

→高校生の回答の方が、全体的に「満足」「ほぼ満足」を合わせた割合が高い回答が多いです。

設問分類	地域	概要
①自然環境	全体	・全体的に「普通」が最も高く約半数の割合となっています。 ➡前回（H30）都市マスでは、「海岸部の自然環境」及び「河川や池などの水辺環境」は、満足度が低い傾向でした。
	山下	・全体的に「普通」が最も高く約半数の割合となっています。
	坂元	・「やや不満」「不満」を合わせた割合が半数以上となる満足度の低い項目は、「河川や池などの水辺環境」の 47.6%です。 ・全体的に山下地域より満足度が低い傾向が伺えます。
②健康福祉	全体	・「やや不満」「不満」を合わせた割合が半数以上となる満足度の低い項目は、「医療施設や救急医療体制」の 53.5%です。 ・その他の項目は、全体的に「普通」が最も高く約半数の割合となっています。 ➡前回（H30）都市マス時は全体的に満足度が低い傾向でした。
	山下	・「やや不満」「不満」を合わせた割合が半数以上となる満足度の低い項目は、「医療施設や救急医療体制」の 54.9%です。 ・「医療施設や救急医療体制」は坂元地域より満足度が低いです。
	坂元	・「やや不満」「不満」を合わせた割合が半数以上となる満足度の低い項目は、「誰もが暮らしやすいバリアフリーなまちづくり」の 48.2%、「医療施設や救急医療体制」の 50.0%、「老人や障がい者のための福祉施設の整備状況」の 46.5%です。

設問分類	地域	概要
③都市基盤	全体	・「やや不満」「不満」を合わせた割合が半数以上となる満足度の低い項目は、「商店の充実や買物の利便性」の 63.5%、「バスや鉄道の利便性」の 56.1%です。 ・その他は全体的に「普通」が最も高く約半数の割合となっています。 ➡前回（H30）都市マスは、「住まいの環境」と「上・下水道整備状況」は「普通」の割合が高く、その他は満足度が低い傾向でした。
	山下	・「やや不満」「不満」を合わせた割合が半数以上となる満足度の低い項目は、「商店の充実や買物の利便性」の 59.3%、「バスや鉄道の利便性」の 54.6%です。
	坂元	・「やや不満」「不満」を合わせた割合が半数以上となる満足度の低い項目は、「商店の充実や買物の利便性」の 78.6%、「生活道路の整備状況」の 48.2%、「バスや鉄道の利便性」の 59.5%です。 ・「商店の充実や買物の利便性」は山下地域より満足度が低い傾向が伺えます。
④教育文化	全体	・全体的に「普通」が最も高く半数以上の割合となっています。 ➡前回（H30）都市マスも同様の結果でした。
	山下	・全体的に「普通」が最も高く半数以上の割合となっています。
	坂元	・全体的に「普通」が最も高く半数以上の割合となっています。
⑤産業振興	全体	・「やや不満」「不満」を合わせた割合が半数以上となる満足度の低い項目は、「水産業の振興」の 53.5%です。 ➡前回（H30）都市マスでは、「農業」「水産業」が「普通」の割合が高く、「観光」「商業」「工業」は満足度の割合が低い傾向でした。
	山下	・「やや不満」「不満」を合わせた割合が半数以上となる満足度の低い項目は、「水産業の振興」の 54.9%と「商業の振興」の 47.9%です。
	坂元	・「やや不満」「不満」を合わせた割合が半数以上となる満足度の低い項目は、「水産業の振興」の 50.0%です。

■地域の生活環境＜現在の満足度＞



②将来の重要度

- ・多くの設問で「重要度が高い」割合が半数以上となっています。
- ・最も重要度が高いのは、「医療施設や救急医療体制」で「重要」「やや重要」を合わせて 87.9%、次いで「商店の充実や買物の利便性」は 85.8%となっており、満足度が低かった項目について重要度が高い傾向が伺えます。
- ・また、満足度では「普通」の割合が多かった「地震、津波、風水害などの自然災害対策」については「重要」「やや重要」を合わせて 81.7%と重要度が高くなっており、震災を経験していることから今後も重要度が高い事項として挙げられていることが想定されます。
- ・最も重要度が低いのは、「文化財の保護や継承」で、「あまり重要でない」「重要でない」を合わせて 6.2%、「普通」が 49.7%となっています。

※重要度：各項目について、「重要」「やや重要」の割合が高いものを「重要度が高い」、「あまり重要でない」「重要でない」の割合が高いものを「重要度が低い」として分析

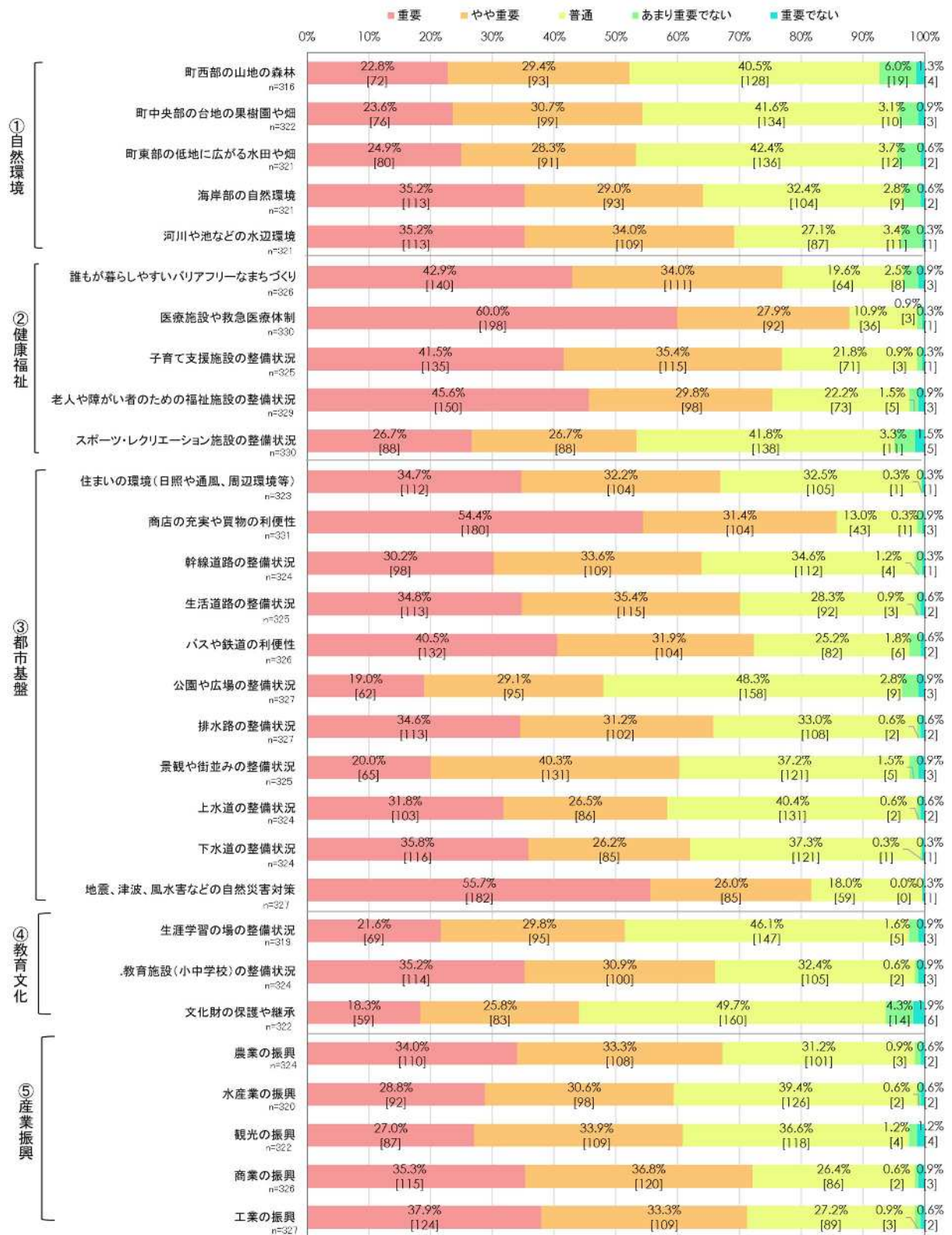
<高校生との比較>

- 「重要」「やや重要」が高い ①「医療施設や救急医療体制」84.2%
 ②「地震、津波、風水害などの自然災害対策」78.6%
 「あまり重要でない」「重要でない」が高い ①「文化財の保護や継承」5.3%
 ②「町西部の山地の森林」3.6%
 →最も重要度が高いもの、低いものについては、一般と同様の結果となっています。

設問分類	地域	概要
①自然環境	全体	・全体的に「重要」「やや重要」を合わせて半数以上となっています。 ・特に重要度が高い項目は「重要」「やや重要」を合わせた割合が 69.2%の「河川や池などの水辺環境」です。
	山下	・全体的に重要度が高くなっています。特に、「海岸部の自然環境」は坂元地域より重要度が高いです。
	坂元	・全体的に重要度が高くなっています。特に、「町東部の低地に広がる水田や畑」は、山下地域より重要度が高いです。
②健康福祉	全体	・「スポーツ・レクリエーション施設の整備状況」以外、「重要」「やや重要」を合わせて7割以上となっています。 ・特に重要度の高い項目は、「重要」「やや重要」を合わせた割合が 87.9%の「医療施設や救急医療体制」です。
	山下	・全体的に重要度が高くなっています。特に、「スポーツ・レクリエーション施設の整備状況」は坂元地域より重要度が高いです。
	坂元	・全体的に重要度が高くなっています。特に、「子育て支援施設の整備状況」は山下地域より重要度が高いです。

設問分類	地域	概要
③都市基盤	全体	・「公園や広場の整備状況」以外、全体的に「重要」「やや重要」を合わせて半数以上の割合となっています。 ・「商店の充実や買物の利便性」、「地震、津波、風水害などの自然災害対策」が特に重要度が高く、8割以上となっています。
	山下	・全体的に重要度が高くなっています。特に、「上水道の整備状況」は坂元地域より重要度が高いです。
	坂元	・全体的に重要度が高くなっています。特に、「住まいの環境（日照や通風、周辺環境等）」は山下地域より重要度が高いです。
④教育文化	全体	・他と比較すると重要度は低いですが、「文化財の保護や継承」を除き、「重要」「やや重要」の割合は半数以上となっています。
	山下	・全体と同様な状況です。
	坂元	・山下地域と比較すると、特に「教育施設（小中学校）の整備状況」について重要度が高くなっています。
⑤産業振興	全体	・「重要」「やや重要」を合わせて6割以上となっています。
	山下	・全体とほぼ相違ないです。
	坂元	・全体とほぼ相違ないです。

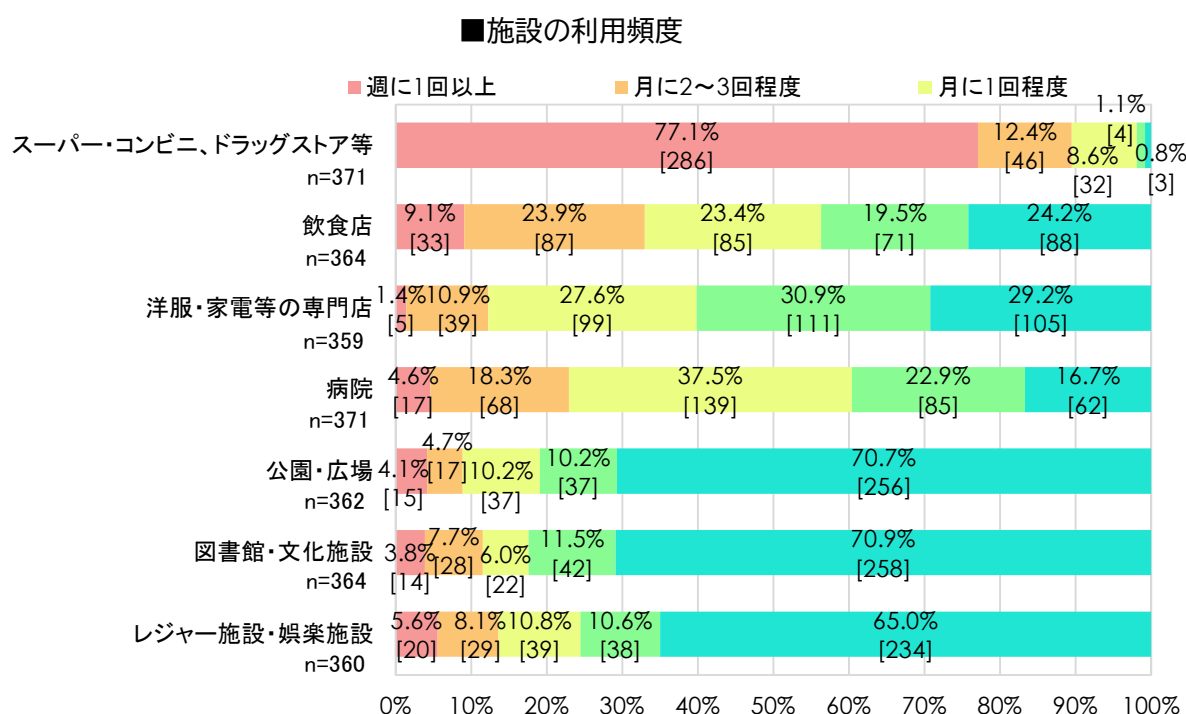
■地域の生活環境＜将来の重要度＞



(3) 日常施設で利用する施設や公共交通について

①施設の利用頻度

- ・スーパー・コンビニ、ドラッグストア等では、「週1回以上」が77.1%で最も多く、半数以上を占めます。
- ・飲食店は、「週に1回以上」の割合が9.1%で最も低くなっています。それ以外は割合が24%前後で均衡しています（ただし「2～3か月に1回以下」は19.5%）。
- ・洋服・家電等の専門店は、「週1回以上」の利用が1.4%と低く、上記2項目（「スーパー・コンビニ、ドラッグストア等」「飲食店」）と比較して、「2～3か月に1回以下」や「ほとんど利用しない」といった利用頻度の低いものの割合が多くなっています。
- ・病院では、「月に1回程度」の利用割合が37.5%で最も多くなっています。
- ・公園・広場、図書館・文化施設、レジャー施設・娯楽施設は、「ほとんど利用しない」が半数以上となっています。



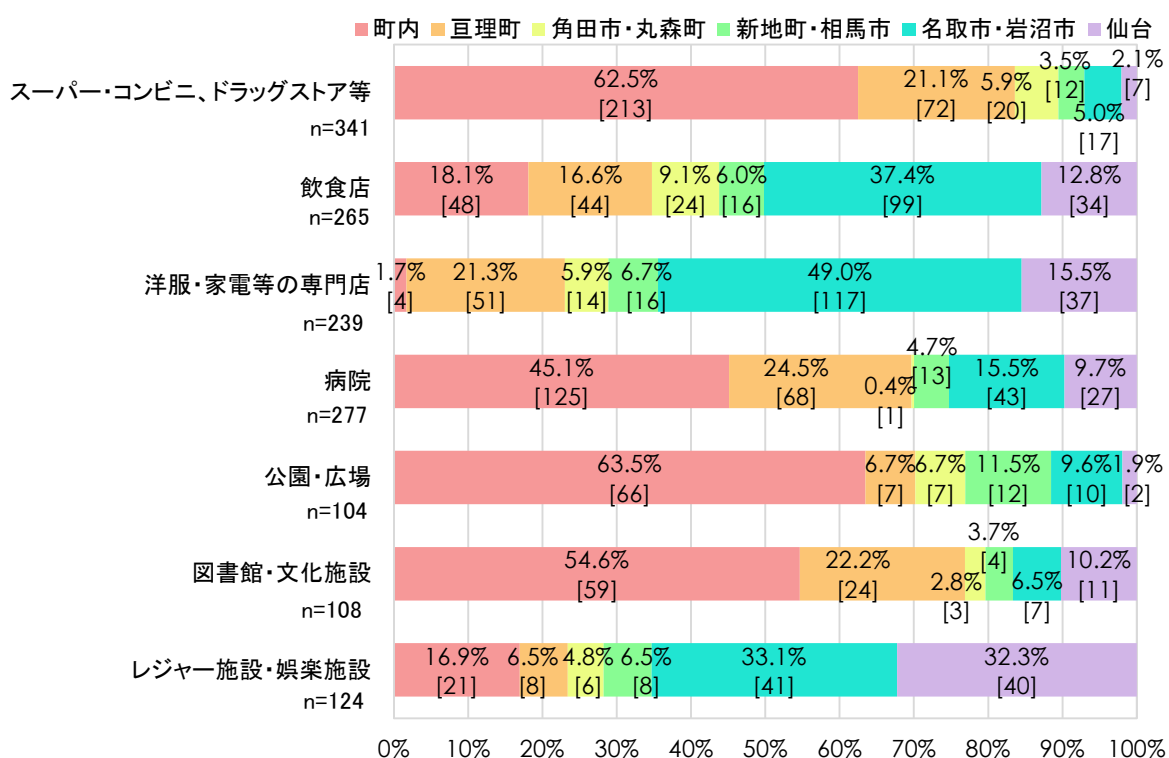
<中学生・高校生との比較>

- ・スーパー・コンビニドラッグストアは一般と同様に、「週1回以上」が最も多いです。
- ・飲食店は、中高生共に「月に2～3回程度」が最も多いですが、中学生は42.7%と一般の2倍近くとなっています。高校生は「週に1回以上」が22.4%となっており、中学生（5.9%）、一般（9.1%）と比較すると多くなっています。
- ・専門店は一般と同じような割合となっています。
- ・病院は高齢者が多い一般の方が利用頻度は多い傾向になっています。
- ・図書館・文化施設、レジャー施設・娯楽施設については、中学生、高校生、一般は「ほとんど利用しない」が最も多い割合となっています。公園・広場について中学生は「週1回以上」と「月2～3回程度」合わせて35.3%あり一定の利用頻度が見られます。高校生は一般と同様の傾向です。

②施設の主な場所

- ・「町内」利用が半数以上の割合を占めるものは、公園・広場が 63.5%で最も多く、次いでスーパー・コンビニ、ドラッグストア等が 62.5%、図書館・文化施設が 54.6%です。
- ・病院も 45.1%で半数近くの割合となっており、次いで亘理町が 24.5%で、町内周辺での割合が高いことが見てとれます。
- ・反対に、飲食店やレジャー施設・娯楽施設の町内の割合はそれぞれ 18.1%、16.9%で 20%を下回っています。利用の割合が最も高いのはどちらも「名取市・岩沼市」で 3割～4割を占めます。
- ・洋服・家電等の専門店については、「町内」利用が 1.7%と極端に低く、「名取市・岩沼市」で 49.0%、「亘理町」で 21.3%、「仙台市」15.5%と町外での利用割合が高くなっています。

■利用施設の主な場所



<中学生・高校生との比較>

- ・「町内」利用が多い項目について、中学生、高校生、一般は同じ傾向となっています。公園・広場は、中学生が 86.6%、高校生が 72.7%と一般に比べて割合が高いです。
- ・飲食店、洋服・家電等の専門店は、中学生、一般は「名取市・岩沼市」が多いのに対し、高校生は「仙台市」が多いです。通学先の「仙台市」が多いことによるものと想定します。
- ・レジャー施設・娯楽施設は「仙台市」4割以上で、一般よりも1割以上多いです。

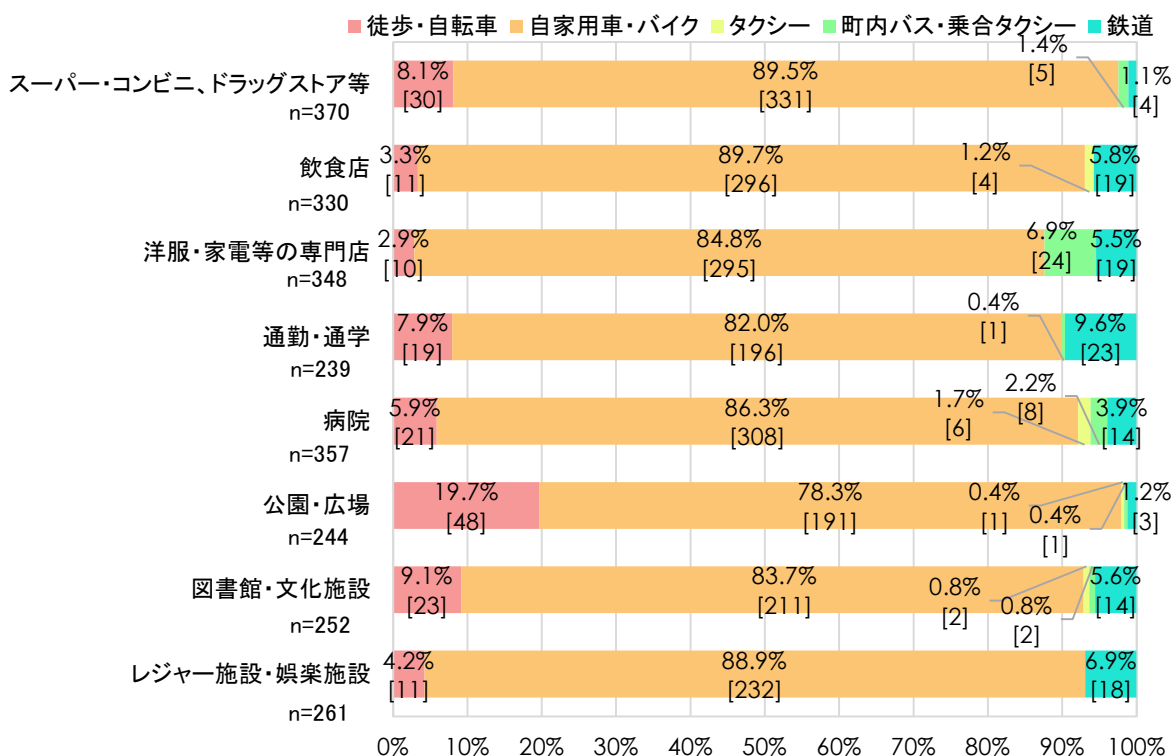
<前回 (H30) 都市マスとの比較>

- ・最寄品（スーパー、ドラッグストア等）の買い物先は①亘理町：51.4%、②町内：21.8%
- ・買回品（洋服・家電等の専門店）の買い物先は①名取市：28.9%②亘理町：20.0%
- ➡最寄品の町内利用が4割ほど増加しています。山下駅前のスーパー立地による影響が考えられます。買回品の利用場所の変化はありません。

③施設の主な移動手段

- ・全ての項目で「自家用車・バイク」の割合が大部分を占めています。
- ・公園・広場は、他の項目より「徒歩・自転車」の割合が多く、20%程度みられます。

■利用施設までの主な利用手段



<中学生・高校生との比較>

- ・スーパー・コンビニ、ドラッグストア等、通学、公園・広場について、中学生は「徒歩・自転車」が最も多いです。高校生は、スーパー・コンビニ、ドラッグストア等、公園・広場は「徒歩・自転車」となり、通学は「鉄道」が7割以上となっています。
- ・「町内バス・乗合タクシー」については、中学生は通学、スーパー・コンビニ、ドラッグストア等に利用していますが、高校生の利用は見られませんでした。

<前回（H30）都市マスとの比較>

- ・最寄品先（スーパー、ドラッグストア等）までの交通手段は、
①自家用車：89.1%、②自転車：3.3%、③バス：1.3%（徒歩は1.0%）
- ・買回品先（洋服・家電等の専門店）までの交通手段は、
①自家用車：86.8%、②電車：4.6%、③バス：2.8%

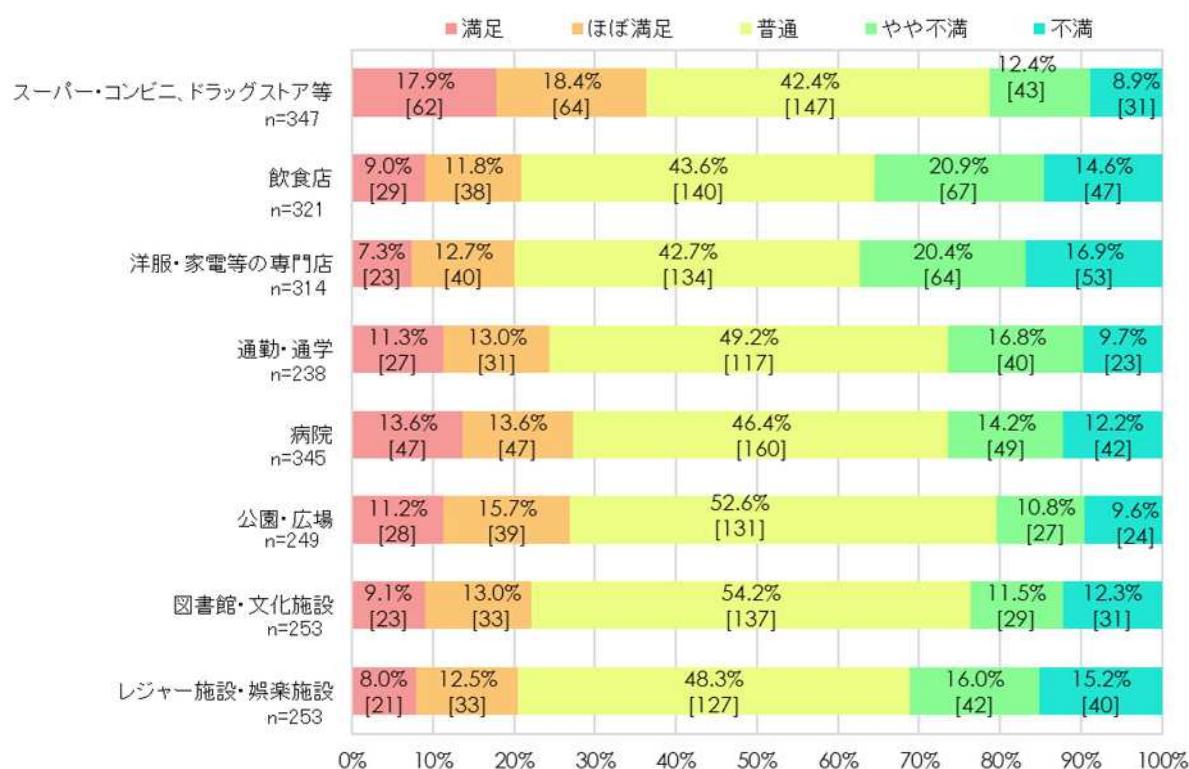
→最寄品及び買回品先までの交通手段について、最も多い「自家用車」は変化がありませんが、最寄品については徒歩・自転車の割合が4%ほど増加し、買回品についてはバス利用が4%ほど増加しています。

④施設までのアクセスの利便性（満足度）

- ・公園・広場を除いて、全体的に「普通」が最も高く4割以上の割合となっています。
- ・公園・広場は98.0%と「満足度が高い」です。身近に整備されていることが伺えます。

※満足度：各項目について、「満足」「ほぼ満足」の割合が高いものを「満足度が高い」、
「やや不満」「不満」の割合が高いものを「満足度が低い」として分析。

■利用する施設までのアクセスの利便性



<中学生・高校生との比較>

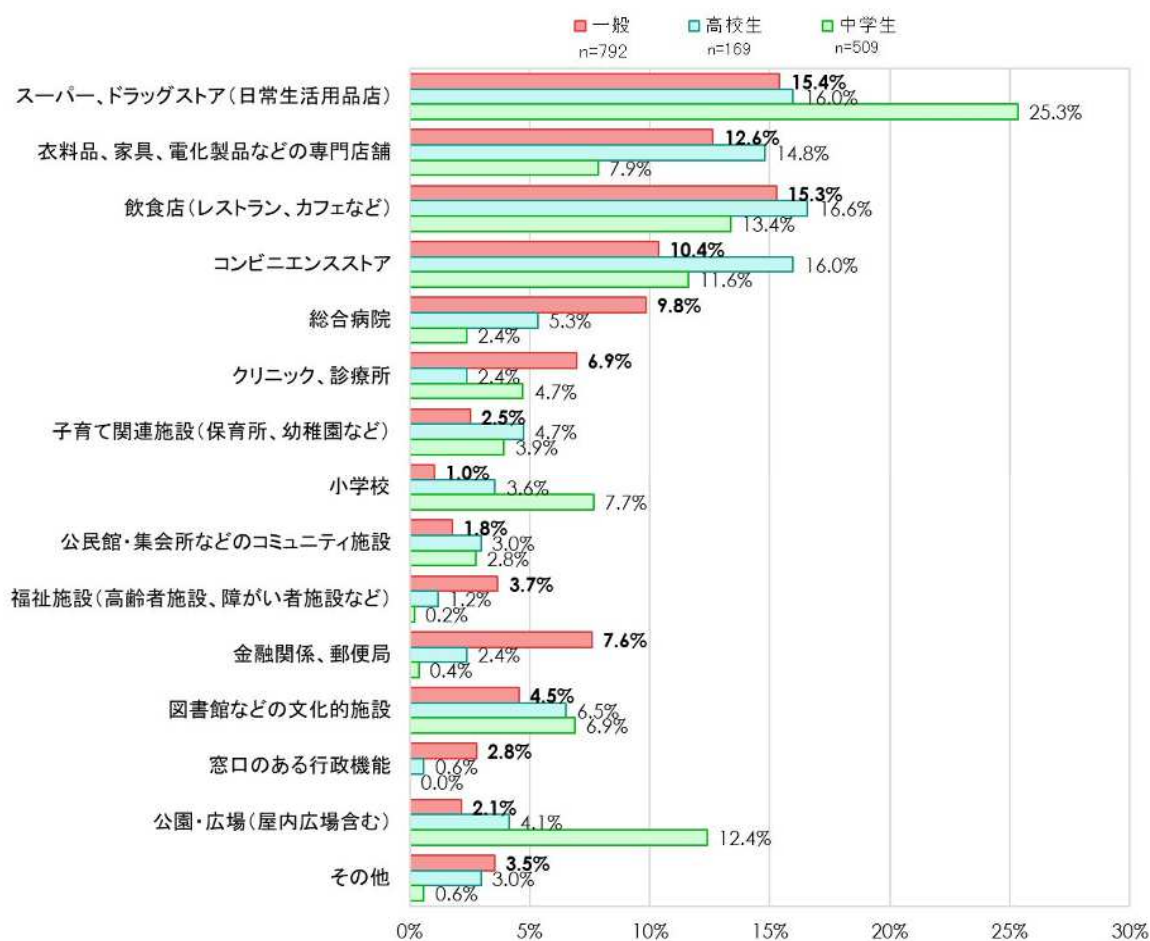
- ・一般は「普通」の割合が多いのに対し、中学生・高校生は、「やや不満」「不満」の割合が多くなっています。
- ・大半が車移動の一般に対し、中学生・高校生の自由に移動できる交通手段は公共交通手段が主となるため、満足度が低くなっていると思われます。

(4) コンパクトなまちづくりに向けた考え方について

①山下駅周辺に充実して欲しい施設（3つまで選択）

- ・「スーパー、ドラッグストア」が15.4%で最も多く、次いで「飲食店」の15.3%、「衣料品、家具、電化製品などの専門店舗」の12.6%となっています。
- ・「スーパー、ドラッグストア」については、既に施設があるため、更なる充実を求めている傾向が伺えます。

■山下駅周辺に充実して欲しい施設



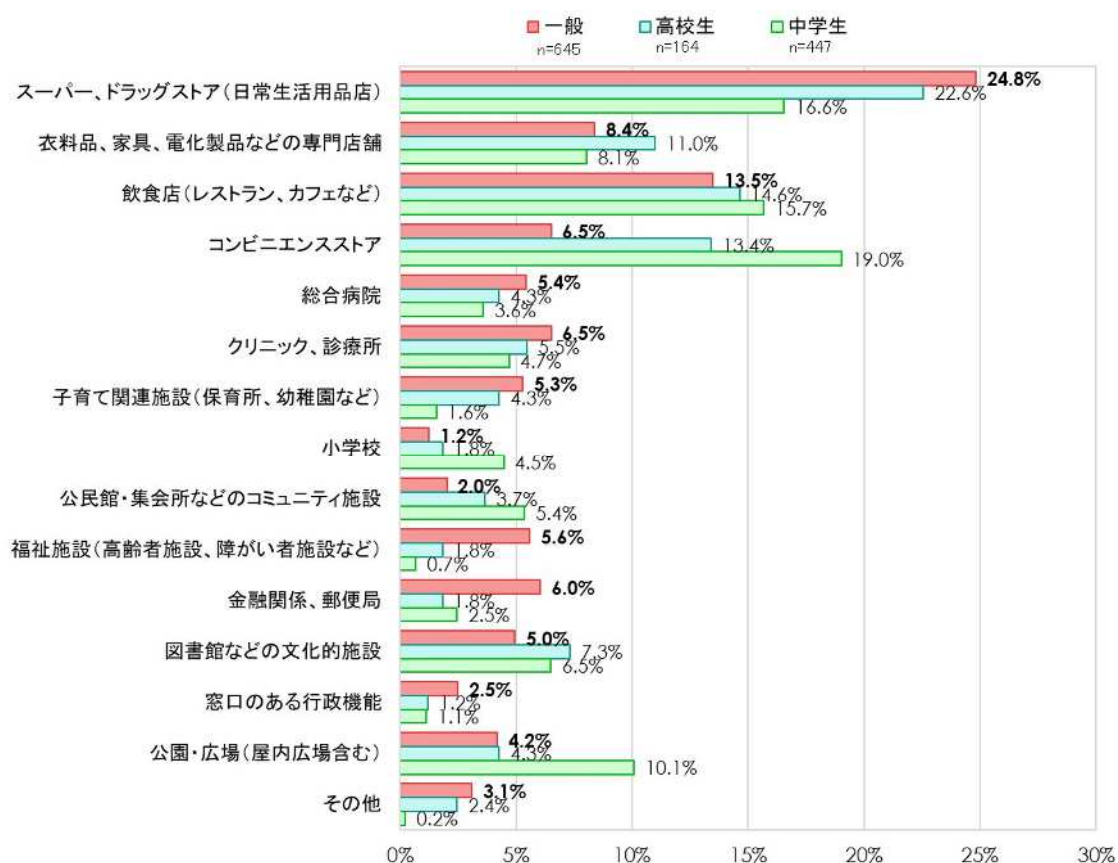
<中学生・高校生との比較>

- ・中学生は、「スーパー、ドラッグストア」が25.3%、「公園・広場」が12.4%となっており、この2項目は、一般、高校生と比較して10%程度多くなっています。
- ・高校生は、「飲食店」が最も多く、次いで「スーパー、ドラッグストア」、「コンビニエンスストア」の16.6%となっています。全体的に一般と似た傾向となっています。

②坂元駅周辺に充実して欲しい施設（3つまで選択）

・「スーパー、ドラッグストア」の割合が 24.8%と最も多く、次いで「飲食店」の 13.5%となっています。

■坂元駅周辺に充実して欲しい施設



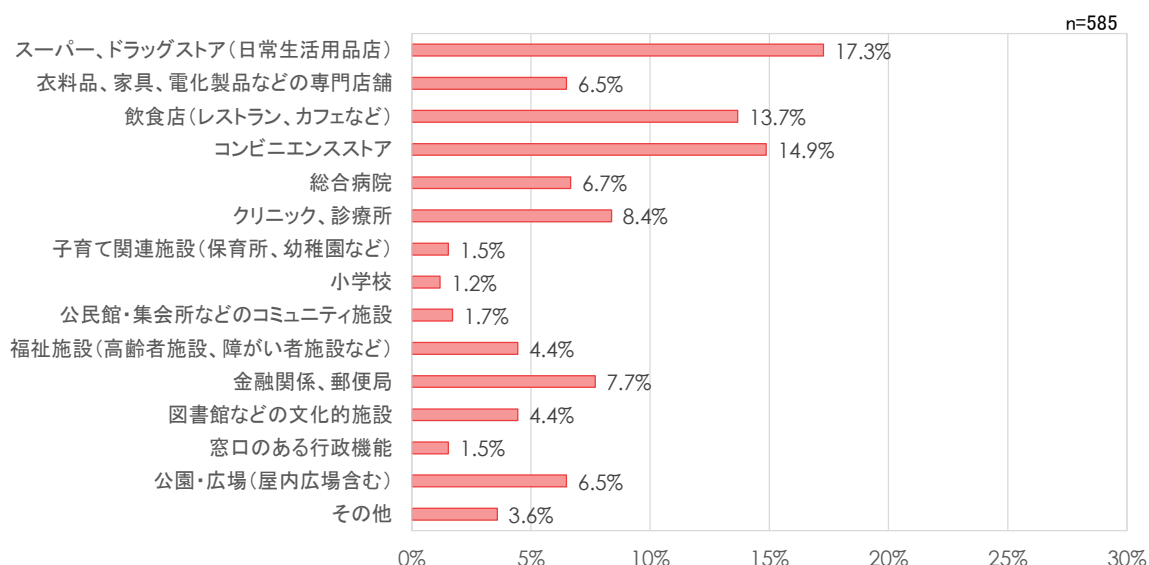
<中学生・高校生との比較>

- ・中学生は、「コンビニエンスストア」が 19.0%で最も多いです。一般の 6.5%、高校生の 13.5%と比較しても、割合が高くなっていることがわかります。また、「公園・広場」についても 10.1%と多く、一般の 4.2%、高校生の 4.3%と比較して割合に特徴が見られます。
- ・高校生は、一般と同じく「スーパー、ドラッグストア」の割合が 22.6%で最も多いです。「コンビニエンスストア」の 13.0%も一般と比較すると高い割合になっています。

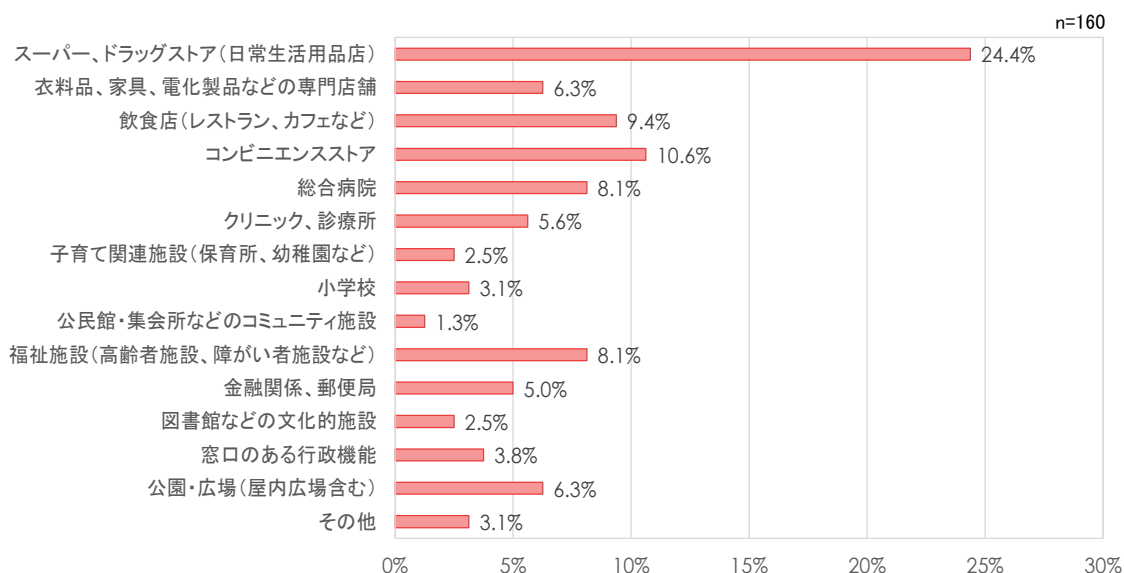
③居住地域に充実して欲しい施設（3つまで選択）

- ・山下地域は、「スーパー、ドラッグストア」が17.3%と最も多く、次いで「コンビニエンスストア」の14.9%となっています。
- ・坂元地域は「スーパー、ドラッグストア」が24.4%と最も多く、山下地域より7.1%高い結果となっています。

■自分の居住地域に充実して欲しい施設（山下地域）



■自分の居住地域に充実して欲しい施設（坂元地域）



<中学生・高校生との比較>

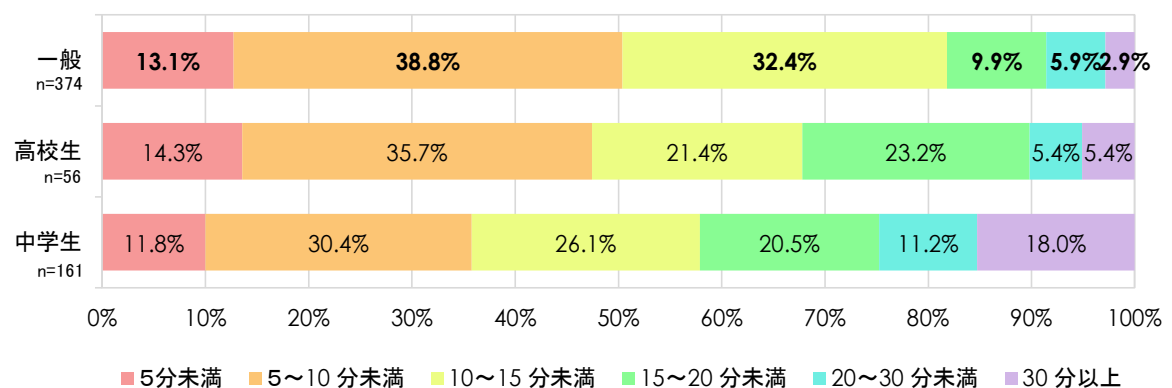
- ・中学生は、「コンビニエンスストア」が22.7%で最も割合が多いです。また、「公園・広場」についても、一般の6.3%、高校生の7.6%と比較しても12.0%と割合が高くなっています。
- ・高校生も、「コンビニエンスストア」が19.7%で最も割合が多いです。次いで「スーパー、ドラッグストア」の17.2%となっています。

- ・①～③について、全体的に買い物ができる施設や飲食店の充実を望む回答が多く見られました。
- ・山下駅周辺と坂元駅周辺を比較すると坂元駅周辺では「スーパー、ドラッグストア等」の充実を望む意見の割合が多くなっています。坂元駅周辺には現在スーパー、ドラッグストアが立地していないことから、出店を望む意見が多いことが想定されます。
- ・居住地域に充実してほしい施設については、駅前と比較すると、コンビニエンスストアの割合が増えており、気軽な買い物ができる店舗が望まれていると想定されます。
- ・中高生は、一般より飲食店やコンビニエンスストアの割合が多いことが伺えます。

④商業施設や病院等の日常的に利用する施設までの徒歩可能時間

- ・「5～10分未満」が38.8%で最も多く、次いで「10～15分未満」の32.4%、「5分未満」の13.1%となっています。

■日常的に利用する施設までの徒歩可能時間



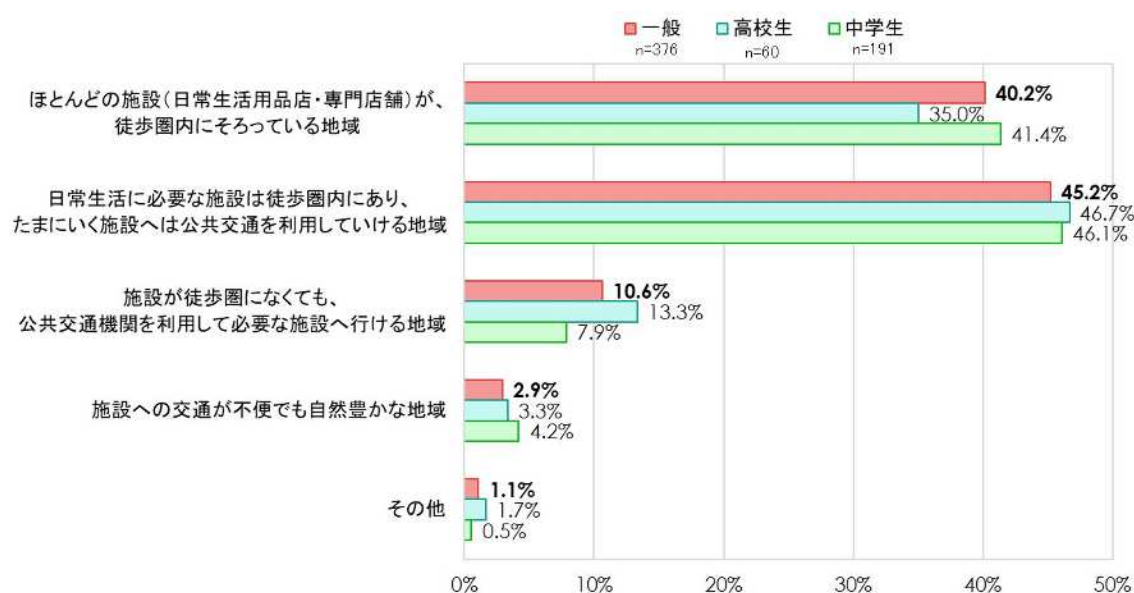
<中学生・高校生との比較>

- ・中学生は、①「5～10分未満」：30.4%、②「10～15分未満」：26.1%、③「15～20分未満」：20.5%となっています。
- ・高校生は、①「5～10分未満」：35.7%、②「15～20分未満」：23.2%、③「10～15分未満」：21.4%となっています。
- ・中高生ともに「5～10分未満」が最も多いですが、一般よりは、徒歩可能時間が長い傾向が伺えます。

⑤徒歩・自転車や公共交通機関での移動のみで生活する場合の住みたい地域のイメージ

- ・「日常生活に必要な施設は徒歩圏内にあり、たまにいく施設へは公共交通を利用していける地域」が 45.2%で最も多く、次いで「ほとんどの施設（日常生活用品店・専門店舗）が徒歩圏内にそろっている地域」の 40.2%となっています。
- ・「施設が徒歩圏になくても、公共交通機関を利用して必要な施設に行ける地域」が 10.6%で、上記2項目と比較して割合が 30%程度低くなっていることから、日常生活に必要な施設が徒歩圏にあるかどうかで大きな差が出ていることが伺えます。

■自動車を使用しない場合の住みたい地域のイメージ



<中学生・高校生との比較>

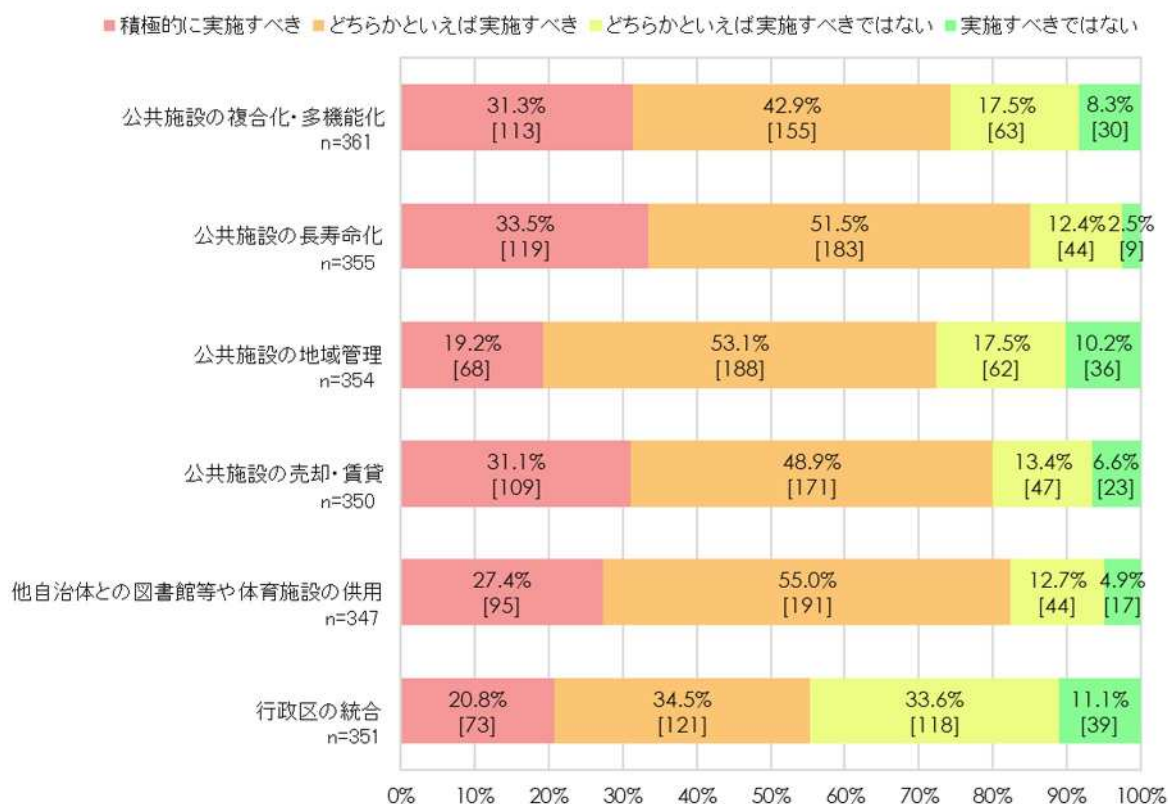
- ・中高生ともに、「日常生活に必要な施設は徒歩圏内にあり、たまにいく施設へは公共交通を利用していける地域」が最も多くなっています。
- ・一方で、「ほとんどの施設（日常生活用品店・専門店舗）が徒歩圏内にそろっている地域」も多くなっています。

(5) 山元町のまちづくりについて

①将来に向けた公共施設や行政区のあり方

- ・行政区の統合以外、「どちらかというを実施すべき」が最も多く、4～5割以上となっています。
- ・行政区の統合については、「実施すべき」「実施すべきではない」が半々となっているため、慎重に検討することが必要です。

■将来に向けた公共施設や行政区のあり方

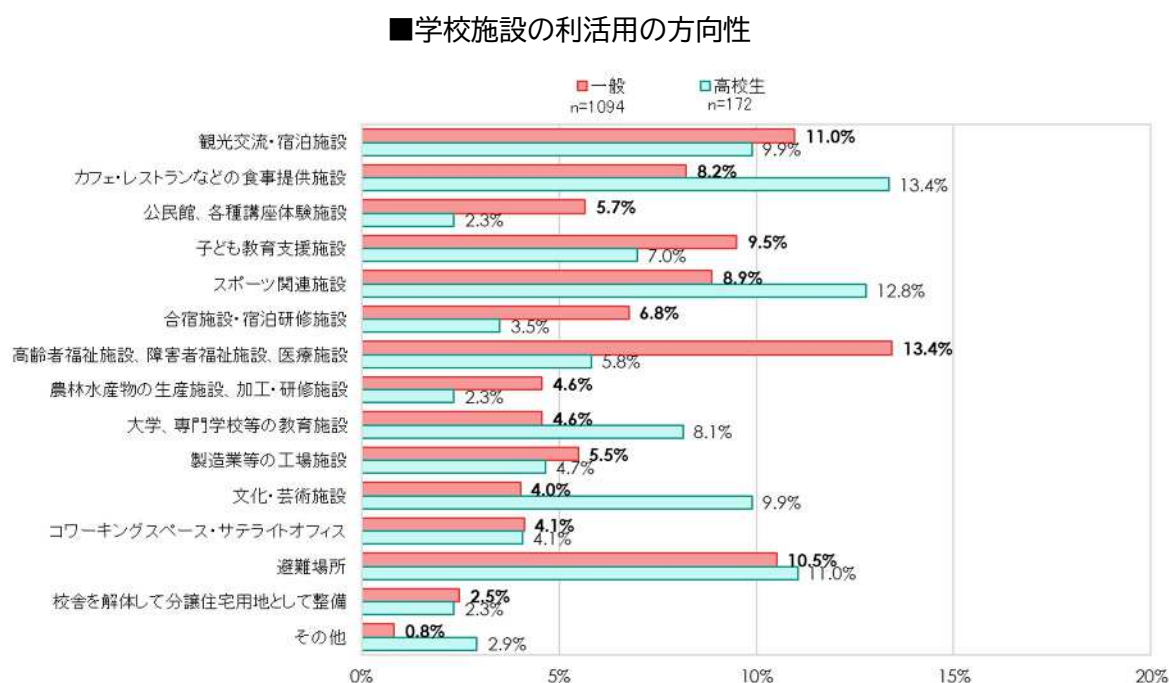


<高校生との比較>

- ・「積極的実施すべき」が最も多いのは、公共施設の長寿命化の 48.3%となっています。
- ・その他の項目は「どちらかというを実施すべき」が最も多く、4割以上となっています。
- ・全体的に実施すべきという意見が多くなっています。

②閉校後の学校施設や跡地の利活用の方向性

- ・「高齢者福祉施設、障害者福祉施設、医療施設」が 13.4%と最も多く、次いで「観光交流・宿泊施設」の 11.0%、「避難場所」の 10.5%となっています。高齢化が著しい現状より、「高齢者福祉施設、障害者福祉施設、医療施設」が多いことが伺えます。

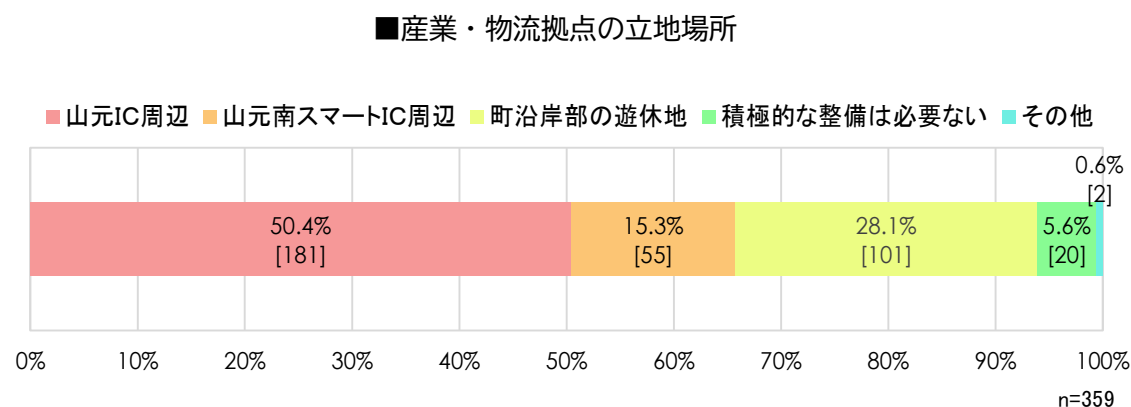


<高校生との比較>

- ・「カフェ・レストランなどの食事提供施設」が 13.4%と最も多く、次いで「スポーツ関連施設」の 12.8%、「避難場所」の 11.0%となっています。

③産業・物流拠点の立地場所

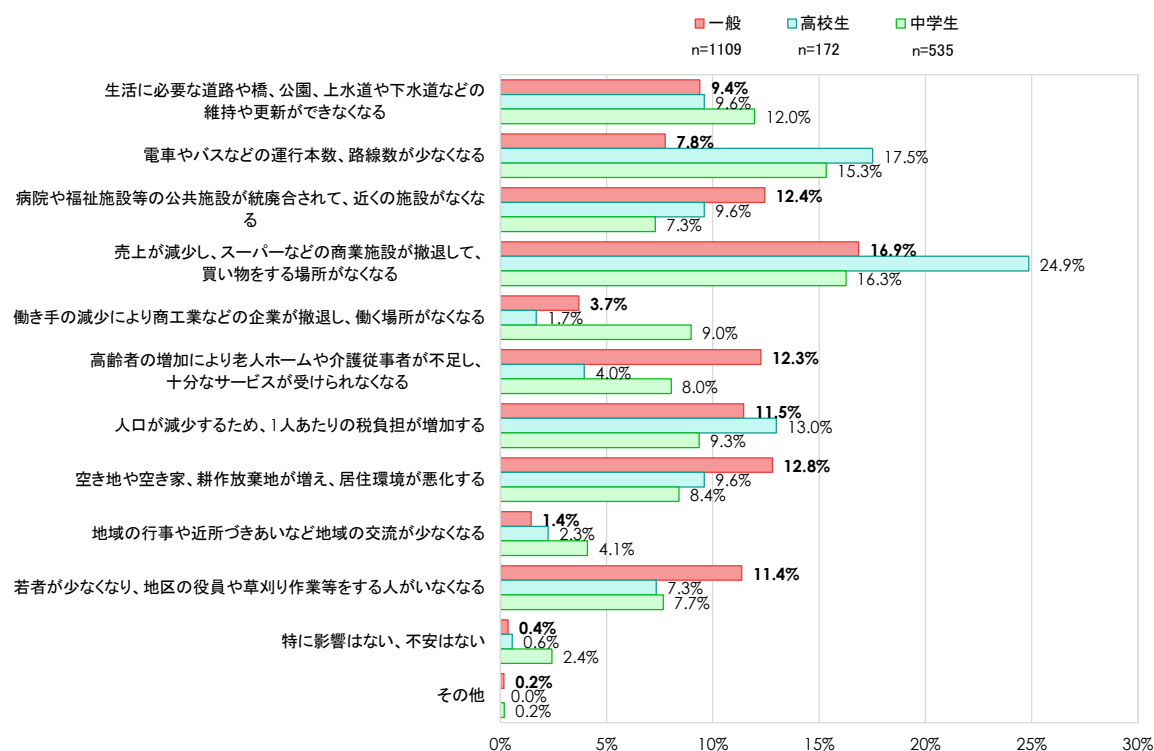
- ・「山元 IC 周辺」が 50.4%と最も多く半数以上占めており、次いで「町沿岸部の遊休地」の 28.1%となっています。
- ・「積極的な整備は必要ない」は 5.6%にとどまっています。



④山元町に住み続ける際に生活に関係すること（不安なこと）

・「売上が減少し、スーパー等の商業施設が撤退して買物をする場所が無くなる」が16.9%で最も多く、次いで、「空き地や空き家、耕作放棄地が増え、居住環境が悪化する」の12.8%、「病院や福祉施設等の公共施設が統廃合されて近くの施設が無くなる」の12.4%となっています。

■山元町に住み続ける際に関係すること（不安なこと）



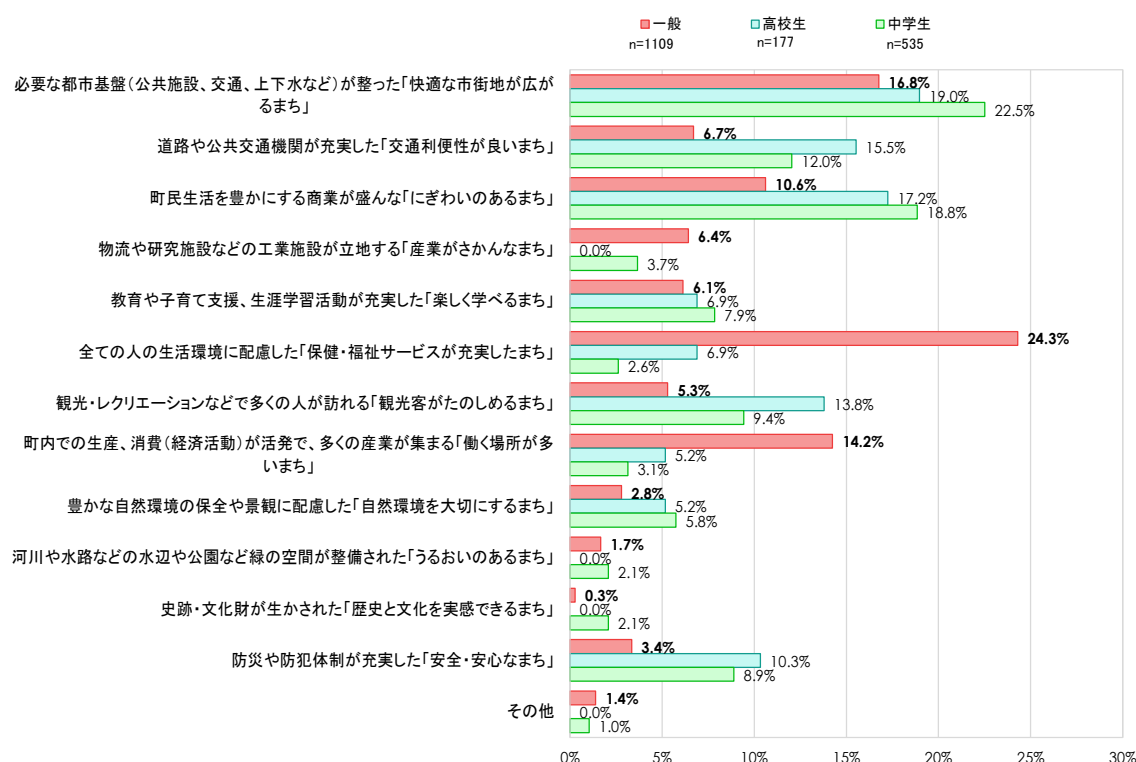
<中学生・高校生との比較>

- ・中高生ともに、「売上が減少し、スーパー等の商業施設が撤退して買物をする場所が無くなる」の割合が最も多く、次いで、「電車やバスなどの運行本数、路線数が少なくなる」となっています。
- ・高校生は、特に「売上が減少し、スーパー等の商業施設が撤退して買物をする場所が無くなる」の割合が多く、中学生、一般よりも10%程度高い割合となっています。

⑤山元町が目指すべきまちづくり

- ・全ての人の生活環境に配慮した「保健・福祉サービスが充実したまち」が24.3%と最も多く、次いで、必要な都市基盤（公共施設、交通、上下水など）が整った「快適な市街地が広がるまち」が16.8%、町内での生産、消費（経済活動）が活発で、多くの産業が集まる「働く場所が多いまち」が14.2%となっています。

■山元町が目指すべきまちづくり



<中学生・高校生との比較>

- ・中高生ともに、「必要な都市基盤（公共施設、交通、上下水など）が整った『快適な市街地が広がるまち』」の割合が最も多く、次いで、「町民生活を豊かにする商業が盛んな『にぎわいのあるまち』」、「道路や公共交通機関が充実した『交通利便性が良いまち』」の順になっています。
- ・一般で最も多い、「全ての人の生活環境に配慮した『保健・福祉サービスが充実したまち』」については、高校生：6.9%、中学生：2.6%と低い割合となっています。

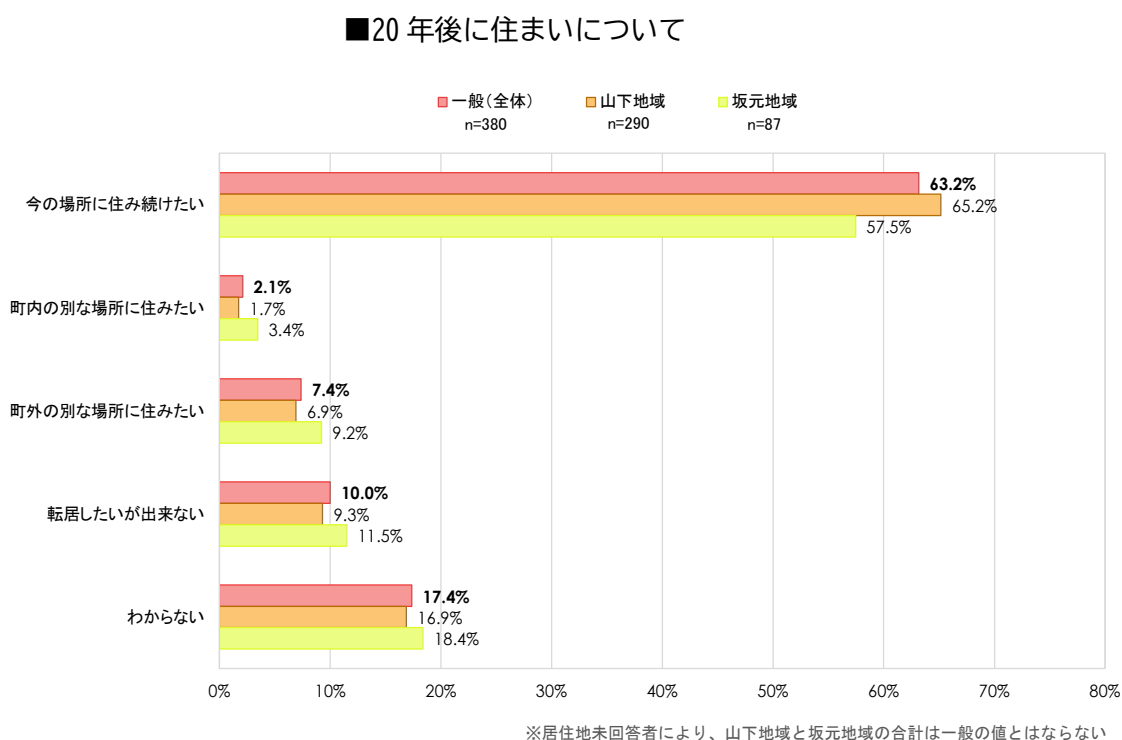
<前回（H30）都市マスとの比較>

- ※前回（H30）都市マスは、項目ごとに「望んでいる」、「望んでいない」等の選択回答としている。
- ・前回（H30）都市マスでは、“災害に強い「安全なまち」”は「望んでいる」が62.8%と最も高く、次いで“道路や交通機関が整備された「交通利便性が良いまち」”は60.0%となっています。
- ・今回のアンケートで高かった“全ての人の生活環境に配慮した「保健・福祉サービスが充実したまち」”は48.4%となっており、前回（H30）と比較し、求められているまちづくりが変化していることが伺えます。

(6) 将来住みたい・働きたい場所

①20年後の住まいについて

- ・一般（全体）では、「今の場所に住み続けたい」が63.2%で最も多く、次いで「わからない」の17.4%となっています。
- ・地域別にみても同様の割合となっており、多くの住民が住み続けたいと思っていることが伺えます。



<中学生・高校生との比較>

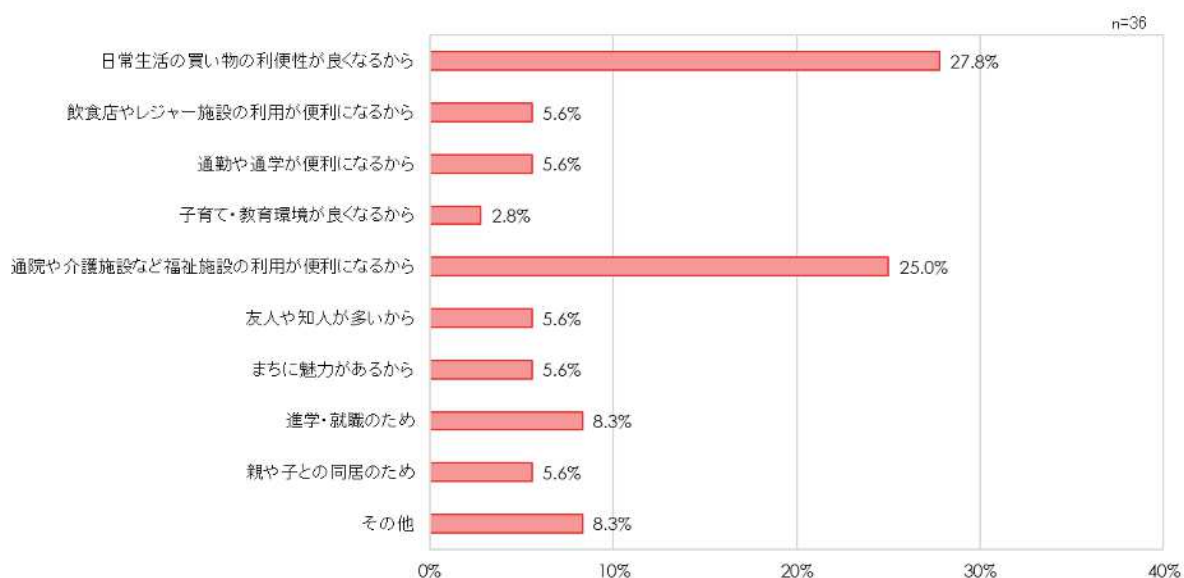
※中高生は選択肢が少し異なります。

- ・中高生ともに、「進学や就職などで一度は山元町を離れるが、いつかは今の場所に戻って住みたい」が最も多くなっています。
- ・山元町に住みたい意向を示している、「今の場所に住み続けたい」と「進学や就職などで一度は山元町を離れるが、いつかは今の場所に戻って住みたい」の合計は4割以上となっています。
- ・一般と比較すると住み続けたい意向は低いものの、Uターンの意向が高いことが伺えます。

① a 別の場所に住みたい理由

- ・①の設問で「別の場所に住みたい」と答えた理由については、「日常生活の買い物の利便性が良くなるから」が27.8%と最も多く、次いで「通院や介護施設など福祉施設の利用が便利になるから」が25.0%となっています。

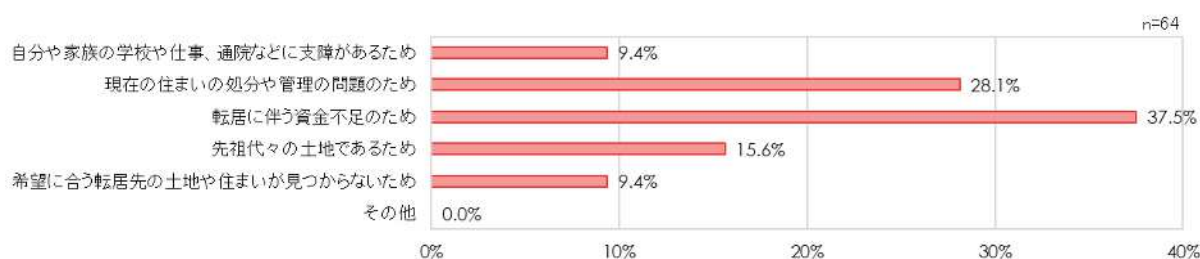
■別の場所に住みたい理由



① b 転居したいが出来ない理由

- ・①の設問で「転居したいができない」と答えた理由については、「転居に伴う資金不足のため」が37.5%と最も多く、次いで「現在の住まいの処分や管理の問題のため」が28.1%となっています。

■転居できない理由

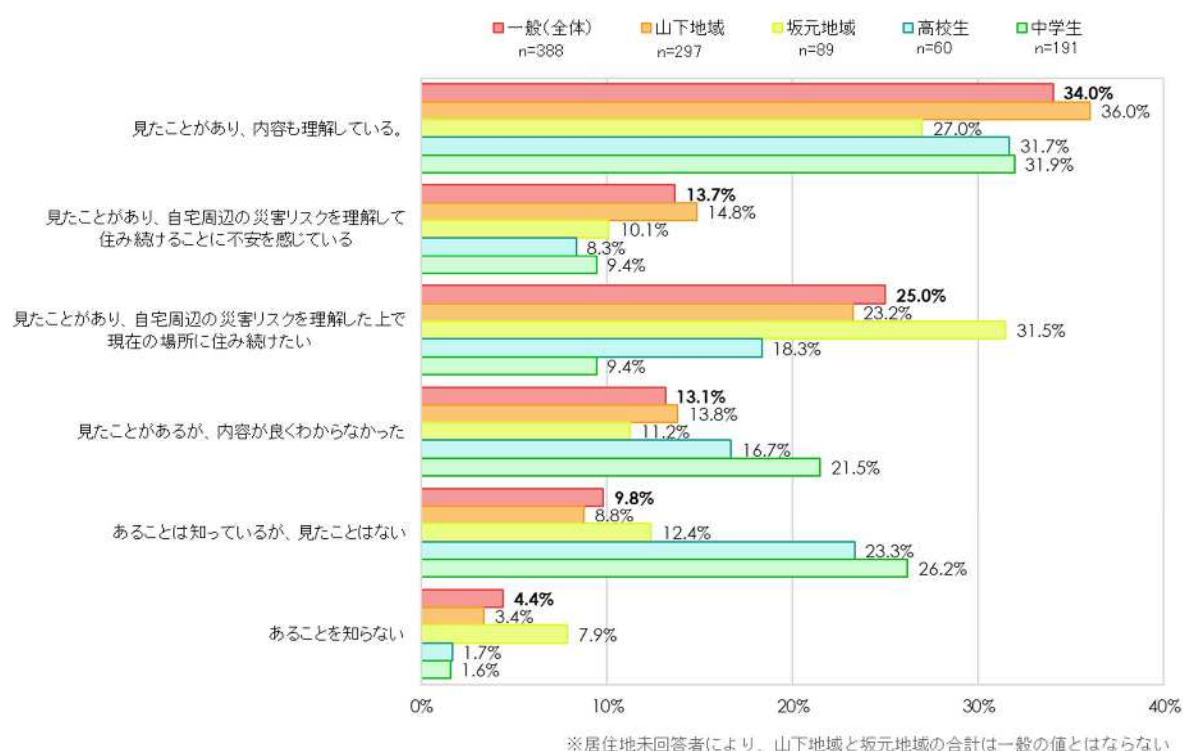


(7) 防災について

①ハザードマップの認知度

- ・一般（全体）では、「見たことがあり内容を理解している」が 34.0%で最も多く、次いで「見たことがあり、自宅周辺の災害リスクを理解した上で現在の場所に住み続けたい」が 25.0%となっています。
- ・坂元地域では「見たことがあり、自宅周辺の災害リスクを理解した上で現在の場所に住み続けたい」は 31.5%と最も多くなっています。
- ・「見たことがある」は、全体で8割以上となっています。

■ハザードマップの認知度（内容の理解）



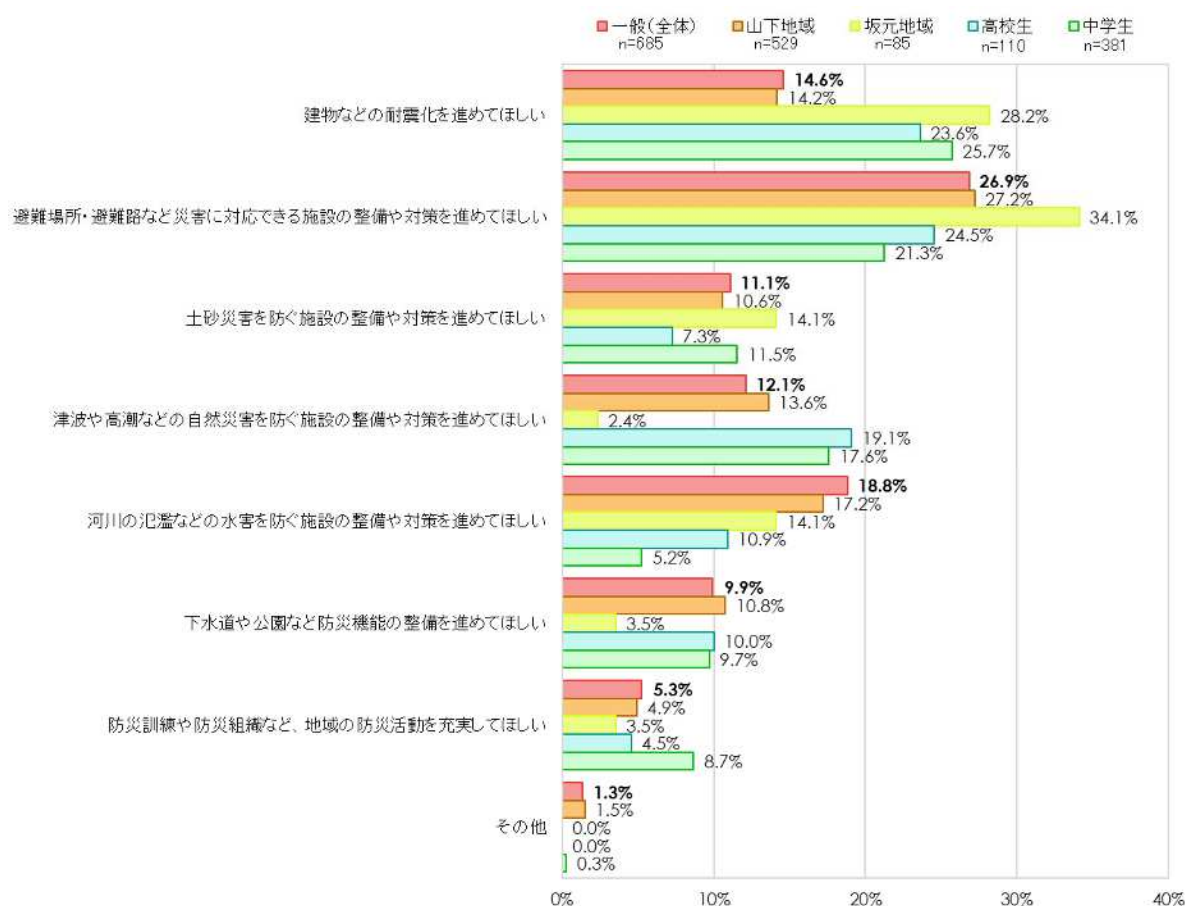
<中学生・高校生との比較>

- ・中高生共に、「見たことがあり内容を理解している」が最も多いですが、一般と比較して「見たことがあるが、内容が良くわからなかった」や「あることは知っているが、見たことはない」についても 20%以上います。

②地域の防災対策について（２つまで選択）

- ・一般（全体）では、「避難場所・避難路など災害に対応できる施設の整備や対策を進めてほしい」が26.9%で最も多く、次いで「河川の氾濫などの水害を防ぐ施設の整備や対策を進めてほしい」が18.8%、「建物などの耐震化を進めてほしい」が14.6%となっています。
- ・地域別では、坂元地域が「避難場所・避難路など災害に対応できる施設の整備や対策を進めてほしい」が34.1%と突出しています。

■居住地の防災対策の印象



<中学生・高校生との比較>

- ・中学生は、「建物の耐震化を進めてほしい」が最も多く、高校生は、「避難場所・避難路など災害に対応できる施設の整備や対策を進めてほしい」が最も多くなっています。

9. 住民意向調査の分析

課題整理に向けた、各設問における住民アンケート結果を整理内容から今後の課題について分析しました。

項目	分析結果
現在の満足度・重要度	・前回（H30）のアンケートと比較すると、全体的に、満足度が低い→普通となり、まちづくりに対する満足度は一般・高校生ともに高くなっている。特に、「住まいの環境（日照や通風、周辺環境等）」の満足度は上昇している。 ・ただし、「商店の充実や買い物の利便性」、高校生では「スポーツ・レクリエーション施設の整備状況」の満足度は低い。 ・重要度は「医療施設や救急医療体制」「商店の充実や買い物の利便性」が高く、後者については坂元地域で特に高い。 ➡日常的に利用する施設に対して重点的な対策が求められている。
利用する施設・場所と移動パターン（利用頻度・場所、移動手段、満足度）	・過年度と比較すると、最寄品は町内利用の頻度が高くなっている。震災復興時に誘致された、山下駅前の商業施設立地が要因と思われる。 ・飲食店、洋服・家電等の専門店、レジャー施設・娯楽施設は町外利用が大半となっている。飲食店は利用頻度が高い。 ・交通手段は自家用車が8割以上となっており、前回（H30）アンケートと変化はない。今後ますます増加する老年人口を考慮すると、公共交通の充実が求められる。 ・「公園・広場」のみ利便性の満足度が高い。 ➡利用頻度が低い施設は広域的な利用とし、利用頻度が高い施設は積極的な誘致や整備を図るなど、町民のニーズに沿ったまちづくりが必要となる。どちらにしても、町内外の移動が円滑となるように公共交通の利用増進と併せて対策が必要となる。
コンパクトなまちづくり	・駅前では、スーパー・ドラッグストアやコンビニなどの日常的な買い物を行う施設の需要が高く、次いで飲食店、専門店舗の需要も高い。 ・居住している地域では、中高生はコンビニ、一般はスーパー・ドラッグストアの需要が高く、坂元地域で特に高い。 ・施設の徒歩利用圏内としては、5～10分がどの年代でも最も高い。 ・公共機関や徒歩、自転車移動のみとする場合、「日常施設に必要な施設は徒歩圏にあり、たまにいく施設へは公共交通を利用していける地域」が高い。 ➡今後のまちづくりの方向性として、買い物の利便性の向上と公共交通の充実が求められる。

項目	分析結果
山元町のまちづくり	【公共施設の維持管理】 ・人口減による財政難を見据えて、施設の統廃合や長寿命化対策、地域での管理や売却・賃貸などを実施すべきとの意見が多い。 ・行政区の統合については、高校生は実施すべきと意見が多いが、一般は意見が分かれている。 ➡公共施設については、建替えや大規模修繕の時期と併せて統廃合の検討等が求められている。 ➡行政区の統合については慎重に進めることが求められているが、人口減少により地域格差があるため、将来を考えると統合を前向きに検討することも視野に入れる必要がある。 【学校の施設の利活用】 ・一般は高齢者・障がい者、医療施設、観光交流施設、子育て支援施設など様々な機能に意見が分かれているが、高校生はカフェ・レストラン、スポーツ関連施設、観光交流など、にぎわいに特化した施設の意見が多く見られた。避難場所のみ同意見であった。 ➡利活用は企業誘致が伴う計画でもあるため、立地場所により優位な機能整備にすることも考えられる。 【産業・物流拠点】 ・産業・物流拠点の立地場所は、山元 IC が半数以上の割合で最も高い。 ➡山下 IC 周辺は住宅地も混在しているため、適地選定を十分に実施する必要がある。 【将来の環境の変化】 ・どの世代も、「売上が減少しスーパー等の商業施設が減少し買い物をする場所がなくなる」ことを最も不安としている。 ・中高生に関しては、通学の移動手段となっているため、「電車やバスなどの運行本数、路線数が少なくなる」が次いで多い結果となった。 ・一般については、空き地空き家や耕作放棄地の増加による居住環境の悪化や、公共施設の統廃合により近くの施設がなくなることが次いで多い結果となった。 ➡人口減少が進行しているため、利便性の高い施設を人口密度が保たれている地域に集約することにより、施設の利便性の向上及び居住環境の維持を目指すことも考えられる。

項目	分析結果
山元町のまちづくり (続き)	【目指すべきまちづくり】 ・中高生はほぼ同じ結果となり、必要な都市基盤（公共施設、交通、上下水など）が整った「快適な市街地が広がるまち」が最も高く、一般も２番目に高い結果であった。一般は、全ての人の生活環境に配慮した「保健・福祉サービスが充実したまち」が最も高い。 ➡震災復興にて整備された施設や道路も踏まえた新たな都市基盤を維持し、町全体の豊かな発展を目指していく必要がある。また、利便性の高い地域や人口密度が保たれている地域を維持していくことで、保健・福祉サービスの充実や効率化や促し、公共交通と連携を図りながら町全体の生活環境を保持していくことも考えられる。
今後の住み替え意向	・一般は今の場所に住み続けたい意向が高く、中高生は一度離れるが、いつかはもどって住みたいという意見が多い。 ➡過疎自治体ながら高い地元定着層がいることが把握されたため、将来戻ってきてもらゆる面で安心して居住できるまちづくりを進める必要がある。
地域防災	・ハザードマップについては、どの年代においても７割以上が“見たことがある”となっており、東日本大震災を経験した町として、住民の防災意識が高いことが伺える。 ・地域の防災対策については、「避難場所・避難路など災害に対応できる施設の整備や対策を進めてほしい」が最も高く、坂元地域で特に高い。 ➡避難場所・避難路については、震災復興整備により整備してきたが、地域によっては近年、頻発化・激甚化している豪雨災害等への対応が必要と考えられる。